



長野県No.1のもも・ネクタリン産地を守ろう！

◆生育状況と当面する重点作業について

昨年より7～8日早い生育と状況です。今後の気象で変化するので作業が遅れないよう注意する。

1. せん孔細菌病の枝病斑が見受けられる。摘果と併せ病斑の切除を徹底し、被袋を早める。
2. まもなく、硬核期に入る時期となり、生理的に不安定な時期に入る。核障害の低減のため、急激な摘果・新梢管理にならぬよう十分注意する。
3. 今年は場所にこだわらず着果量を確保し、袋掛けを行う。併せて誘引・芽かき・摘心を励行する。
4. 無袋栽培園では摘果忘れ等で部分的に着果過多になりやすい。定期的に見直し摘果を行う。
5. この時期は平年並みの降水量でも水分が不足する可能性がある為、こまめにかん水を実施する。なお、大量のかん水は核割れを助長するので、乾湿差を少なくするよう小まめに実施する。干天が続いたら10日位に20mm程度、又は7日位に15mm程度のかん水を行なう。
6. 配布されている「葉面散布肥料・特殊資材の使い方」を参考に葉面散布資材を有効に活用する。

◆桃の袋かけについて

1. 袋かけ時期
 - ①肌荒れ、裂果防止のため、目安として、6月上中旬頃とし、遅くとも6月下旬頃には終了させたい。
 - ②生理落果の多い川中島白鳳等は、この頃見直し摘果をし、最後に袋掛けをする。
2. 袋かけの要領・・・一度掛けた袋には触れないようにする。
 - ①高い所⇒低い所へ
 - ②奥の方⇒手元の方へ順序よく
3. 注意点
 - ①ガク片(花かす)が着いていると、灰星病や灰色かび病の発生源になるので、ガク片を落として袋かけを行う。
 - ②せん孔細菌病の発生が多い園は、果実感染防止のため、早めに実施する。

【もも薬剤防除】

◆第7回薬剤散布について

1. 散布時期・・・6月3日(土)～7日(水) 《実際散布日記入 月 日》
2. 調合量・・・水1000当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
固着性展着剤アピオンE	100ml	—	—
トレノックスフロアブル	200ml	黒星病	7日前まで
㊦ イカズチWDG	66g	モモハモグリガ・シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日まで
マイコシールド	66g	せん孔細菌病	21日前まで

3. 散布量・・・10a当たり⇒5500以上

4. 留意事項

- ①袋掛けに合わせて散布時期を早めてもよい。
- ②固着性展着剤アビオンEに代えて、K. Kステッカー3,000倍(水100ℓ当り33mℓ)を使用してもよい。
ただし、最後に混用する。また、せん孔細菌病の少ない場合は、通常の展着剤(水100ℓ当り10mℓ)を使用してもよい。
- ③トレノックスフロアブルに代えて、㊸デランフロアブル600倍(水100ℓ当り166mℓ・もも7日前・ネクタリン14日前)でもよい。なおデランフロアブルは、せん孔細菌病に対してトレノックスフロアブルより効果は高まる。
- ④㊸イカズチWDGに代えて㊸スカウトフロアブル2,000倍(水100ℓに50mℓ)でも良い。
- ⑤アブラムシ類・カイガラムシ類の発生園は、コルト顆粒水和剤2,000倍(水100ℓに50g・年3回まで)を加用散布する。カイガラムシ類対策として枝幹部にムラなく薬液を掛ける。
- ⑥マイコシールドは収穫前日数が長いので、収穫時期の近い早生品種は㊸デランフロアブル600倍(水100ℓに166mℓ・もも7日前)に代えて散布する。

【ネクタリン薬剤防除】 ※もも・ネクタリン混植園

◆第7回薬剤散布について

1. 散布時期・・・6月3日(土)～7日(水) 《実際散布日記入 月 日》
2. 調合量・・・水100ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
固着性展着剤アビオンE	100mℓ	—	—
㊸デランフロアブル	166mℓ	黒星病	14日前まで
㊸イカズチWDG	66g	モモハモグリガ・シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日まで
(マイコシールド)	66g	せん孔細菌病	28日前まで

3. 散布量・・・10a当たり⇒550ℓ以上

4. 留意事項

- ①袋掛けに合わせて散布時期を早めてもよい。
- ②固着性展着剤アビオンEに代えて、K. Kステッカー3,000倍(水100ℓ当り33mℓ)を使用してもよい。
ただし、最後に混用する。また、せん孔細菌病の少ない場合は、通常の展着剤(水100ℓ当り10mℓ)を使用してもよい。
- ③せん孔細菌病の発生が心配無い場合はデランフロアブルに代えて、ダコニール1000の1,000倍(水100ℓ当り100mℓ)を使用してもよい。
- ④せん孔細菌病の発生が多い場合は、マイコシールド1,500倍(水100ℓ当り66g)を加用散布する。
ただし収穫前日数が長いので、収穫時期の近い早生品種への散布は注意して行う。
- ⑤㊸イカズチWDGに代えて㊸スカウトフロアブル2,000倍(水100ℓに50mℓ)でも良い。
- ⑥アブラムシ類・カイガラムシ類の発生園は、コルト顆粒水和剤2,000倍(水100ℓに50g・年3回まで)を加用散布する。カイガラムシ類対策として、枝幹部にムラなく薬液を掛ける。

◆薬害の発生と予防対策について

毎年この時期になると、もも・ネクタリンの落葉の報告があります。薬剤散布に起因しているので、葉の弱いこの時期は下記内容に留意して下さい。

1. 黄変落葉は、薬剤が葉緑素と結合して脱色するもので、通常は薬効が切れれば回復するが樹勢衰弱樹では落葉する。症状は、褐色斑点⇒せん孔⇒落葉となる。
2. 原因
 - ①高濃度での使用(散布) ②乳剤類・展着剤の過剰使用 ③多種類混用
 - ④重複散布 ⑤日照不足時 ⑥高温乾燥時 ⑦樹勢不安定 等
3. 散布上での問題点として、タンクの底に薬剤が固まったり、残ることのないようよく溶かす事。30分以内に乾く条件で散布したい。

◆ネクタリンの栽培日誌の提出について

ネクタリン出荷予定の方は期日まで提出されますようご協力下さい。

1. 提出要領・・・6月15日(木)までに地区役員さんまで提出して下さい。

※役員さんは6月16日(金)までに各流通センター・共選所まで提出して下さい。

※各個人より、各流通センター・共選所まででも結構です。この場合、役員さんに直接持って行く事を連絡して下さい。

2. 留意事項

- ①今回提出用の栽培日誌を配布いたしますので、記入不備の無いよう注意下さい。
- ②今回の第7回防除まで記入して下さい。
- ③日誌をチェックし法的に問題がある場合は、荷受けはできません。
- ④日誌を提出せずに出荷した場合は、日誌提出並びにチェックを受けるまで、荷受・選果・販売はできません。

◆もも・ネクタリン早生種の収穫前管理について

1. 除袋の目安(上枝)

アームキング:6月中旬頃・たまき有袋:6月中旬頃・なつき有袋:6月中旬頃。

除袋のタイミングは果実の地色が抜け果皮が淡く白冴えになったころが目安。

2. 薬剤防除

- ①有袋除袋後又は、無袋着色始め(収穫7～10日前頃)の薬剤散布を行う。

・調 合 量・・・水100ℓ 当り ※混用順に記載。 《実際散布日記入 月 日》

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
ア プ ロ ー チ B I	1 0 0 mℓ	機能性展着剤	—
スクレアフロアブル	3 3 mℓ	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日まで
アーデントフロアブル	5 0 mℓ	ミカンキイロアザミウマ・シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日まで

- ②収穫開始2日前防除の薬剤散布を行う。★降雨が多い場合は、非常に重要な防除。

・調 合 量・・・水100ℓ 当り ※混用順に記載。 《実際散布日記入 月 日》

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
ア プ ロ ー チ B I	1 0 0 mℓ	機能性展着剤	—
(デ ィ ア ナ W D G)	2 0 g	ミカンキイロアザミウマ・シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日まで
オンリーワンフロアブル	5 0 mℓ	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日まで

・散 布 量・・・10a当り ⇒ 500ℓ 以上

- ③留意事項

・ミカンキイロアザミウマ・シンクイムシ類・ハマキムシ類の発生が心配される園は、『収穫開始2日前防除』にディアナ WDG5,000 倍(水 100ℓ 当り 20g・収穫前日まで)を加用散布する。

・オンリーワンフロアブルに代えて、オーシャインフロアブル 2,000 倍(水 100ℓ 当り 50 ml・収穫前日まで)を使用してもよい。

◆せん孔細菌病の対策を実施する！

- ①引き続き、残っている春型枝病斑の剪除と、夏型枝病斑の剪除を行う。
なお、枝病斑にヤニが出ている場合、病斑に触らないようにする。
触った手は感染防止のため果実に触れないようにする。
病斑が出た葉の上には枝病斑があることが多いので注意する。
- ②袋掛けも果実感染を防ぐ重要な方法。発生が多い園は、早めに実施する。
袋掛け前に、黒い点の病斑が見える果実は除去する。
- ③薬剤防除の効果は完全ではないが重要。袋掛けまでが防除時期。
散布量をしっかり撒く事。発生の多い園は外周もしっかり散布する事が重要。



《栽培に関する問合せ》

寺澤 (篠ノ井西部・信田) : 080-1188-5229 / 外谷 (篠ノ井東部) : 080-8048-6602

松橋 (松代) : 090-4816-6297 / 佐藤 (川中島) : 090-7179-9866

根津 (更北) 080-1203-8576 / 元田 (若穂) 282-2002

吉澤 (全域・編集担当) : 090-2543-0365 / 営農販売部 (本所) : 292-0930

○果樹のアドバイザー (流通センター長兼務)

松澤 (若穂) 080-1191-5166 / 伊藤 (篠ノ井東部) 080-2239-6816

松坂 (篠ノ井西部) 080-1188-4131

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所 / 営農販売部 (本所) : 292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部 / 農業資材課 : 299-3311